

【 九 重 町 】

令和6年度 全国学力・学習状況調査結果（小学校：国語）

1 調査結果の分析

小学校：国語

- 教科の正答率で見ると、国語は全国と比較して+1.3ポイントであった。
- 学習指導要領の領域等の正答率では、「話すこと・聞くこと」-3.0ポイントが全国平均を下回り、「言語の特徴や使い方に関する事項」+1.2ポイント、「情報の扱い方に関する事項」+1.6ポイント、「我が国の言語文化に関する事項」+5.7ポイント、「書くこと」+2.1ポイント、「読むこと」+5.8ポイントと、5領域で全国平均を上回った。
- 問題形式別平均正答率では、「選択式」+0.3ポイント、「短答式」+5.1ポイント、「記述式」+5.9ポイントであった。
- 正答数度数分布では12問（14問中）正解の割合が多く、0問～3問のみ正解の児童が3.3%いる。
- 無解答率は2.3%で、全国（4.2%）と比較して+1.9ポイントであった。

※全国と比較して、「話すこと・聞くこと」の領域に課題がある。

2 具体的な改善方策

小学校：国語

次のような視点を持って指導を行っていく。

- 資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるようにする。
- 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるようにする。

【 九 重 町 】

令和6年度 全国学力・学習状況調査結果（小学校：算数）

1 調査結果の分析

小学校：算数

- 教科の正答率で見ると、算数は全国と比較して－0.5ポイントであった。
- 学習指導要領の領域等の正答率では、「数と計算」－9.4ポイント、「変化と関係」－4.2ポイントで全国平均を下回り、「図形」＋1.7ポイント、「データの活用」＋0.9ポイントで全国平均を上回った。
- 問題形式別平均正答率では、「選択式」－5.8ポイント、「短答式」－1.3ポイント、「記述式」－5.1ポイントであった。
- 正答数度数分布では12・13問（16問中）正解の割合が一番多く、4問以下の割合が11.4％であった。
- 無解答率は4.4％であり、全国（3.4％）と比較して－1.0％であった。

※全国と比較して「数と計算」「変化と関係」の領域に課題がある。

2 具体的な改善方策

小学校：算数

次のような視点を持って指導を行っていく。

- 問題場面の数量の関係を捉え、式に表すことができるようにする。
- 球の直径の長さや立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことができるようにする。
- 速さの意味について理解できるようにする。
- 道のりが等しい場合の速さについて、時間をもとに判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるようにする。

【 九 重 町 】

令和6年度 全国学力・学習状況調査結果（中学校：国語）

1 調査結果の分析

中学校：国語

- 教科の正答率で見ると、国語は全国と比較して－0.4ポイントであった。
- 学習指導要領の領域等の正答率では、「言葉の特徴や使い方に関する事項」－5.5ポイント、「話すこと・聞くこと」－3.4ポイント、「書くこと」－4.9ポイント、「読むこと」－4.7ポイントと、4領域で全国を下回り、「情報の使い方に関する事項」＋0.1ポイント、「我が国の言語文化に関する事項」＋10.1ポイントと、2領域で全国を上回った。
- 問題形式別平均正答率では、「選択式」－1.5ポイント、「短答式」－3.8ポイント、「記述式」－6.5ポイントであった。
- 正答数度数分布では5・7・10問（15問中）正解の割合が多く、4問以下の割合が7.8%であった。
- 無解答率は4.9%で、全国（3.9%）と比較して－1.0ポイントであった。
- ※全国と比較して、「言葉の特徴や使い方に関する事項」「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の領域に課題がある。

2 具体的な改善方策

中学校：国語

次のような視点を持って指導を行っていく。

- 話し合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめることができるようにする。
- 文章と図とを結びつけ、その関係を踏まえて内容を解釈することができるようにする。
- 目的や意図に応じて必要な情報に着目して要約することができるようにする。

【 九 重 町 】

令和6年度 全国学力・学習状況調査結果（中学校：数学）

1 調査結果の分析

中学校：数学

- 教科の正答率で見ると、数学は全国と比較して－5.5ポイントであった。
 - 学習指導要領の領域等の正答率では、「数と式」－6.9ポイント、「図形」－9.6ポイント、「関数」－2.3ポイント、「データの活用」－3.6ポイントであり、すべての領域で全国を下回った。
 - 問題形式別平均正答率では、「選択式」－1.5ポイント、「短答式」－3.8ポイント、「記述式」－6.5ポイントであった。
 - 正答度数分布では7問（15問中）正解の割合が一番多く、3問以下の割合は14.0%であった。
 - 無解答率は17.2%であり、全国（11.2）と比較して－6.0ポイントであった。
- ※全国と比較して、すべての領域に課題がある。

2 具体的な改善方策

中学校：数学

次のような視点を持って指導を行っていく。

- 目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるようにする。
- 複数の集団のデータの傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるようにする。
- 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるようにする。
- 筋道を立てて考え、説明することができるようにする。

【 九 重 町 】

令和6年度 全国学力・学習状況調査結果（児童・生徒質問調査）

1 調査結果の概要

児童質問調査

○小学校の主な項目において、次の項目で全国平均よりも5ポイント以上高い数値を示している。

- ・5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICTをどの程度使用しましたか（週3回以上と回答した割合）
- ・総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると思いますか
- ・道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいると思いますか
- ・国語の勉強は好きですか
- ・国語の授業の内容はよく分かりますか
- ・算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか
- ・理科の勉強は好きですか
- ・理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていますか
- ・英語の勉強は好きですか
- ・学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考えに気付いたりすることができていますか

○小学校の主な項目において、次の項目で全国平均よりも5ポイント以上低い数値を示している。

- ・自分には、よいところがあると思いますか
- ・学校に行くのは楽しいと思いますか

生徒質問調査

○中学校の主な項目において、次の項目で全国平均よりも5ポイント以上高い数値を示している。

- ・将来の夢や目標を持っていますか
- ・地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか
- ・2年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICTをどの程度使用しましたか（週3回以上と回答した割合）
- ・国語の授業の内容はよく分かりますか
- ・理科の勉強は好きですか

○中学校の主な項目において、次の項目で全国平均よりも5ポイント以上低い数値を示している。

- ・数学の授業は好きですか
- ・1，2年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章，話の組立てなどを工夫して発表していたと思いますか

2 九重町の児童・生徒質問調査の調査結果をふまえて

<成果>

- 小・中学校とも児童生徒がPCやタブレットなどのICTを使用する授業が仕込まれている。
- 小学校では教科に対する愛好度が高い。

<課題>

- 小学校では自尊感情が低い。
- 小・中学校ともに家庭学習の在り方について再考する必要がある。

以上のことから、新大分スタンダード、小中7年間を見通した総合的な学習の時間を活用した「ここのえ学」、ペア・グループ活動を取り入れた授業（協調学習も含む）の取組が推進されていると推察できる。

以上のことをふまえ、まずは学習に対する意欲付けを行い、授業やペア・グループ活動における課題の設定についての研究、家庭学習になどについて小中が連携した取組をよりいっそう推進していくことが必要である。

【 九 重 町 】

令和6年度 全国学力・学習状況調査結果（学校質問調査）

1 調査結果の概要

小学校：学校質問

○肯定的な回答

- ・各児童の様子を、担任や副担任だけでなく、可能な限り多くの教職員で見取り、情報交換をしている。
- ・教員が大型提示装置等のICT機器を活用した授業を行なっている。
- ・ストレスチェックの結果の活用と研修など、教職員自身の心身の健康状態につき振り返り対処する機会が提供されている。

○一部課題が見られる回答

- ・今までの取組をそのまま踏襲するのではなく、新しい取り組みを導入したり、提案をしたりしてきたか。
- ・家庭学習について、児童が自分で学ぶ内容や学び方を決めるなど、工夫して取り組めるような活動を行なったか。

中学校：学校質問

○肯定的な回答

- ・教員・生徒ともにICT機器の活用に関する質問事項の回答がほぼ肯定的である。
- ・コミュニティスクールや地域学校協働活動等の取り組みによって、学校と地域や保護者の相互理解が深まっている。

○課題が見られる回答

- ・個々の教員が自らの専門性を高めるため、校外の研究会等に定期的・継続的に参加できているか。
- ・授業では、生徒が自分で学ぶ内容を決め、計画を立てて学ぶ活動を仕組んでいるか。

2 九重町の学校質問調査の結果をふまえて

- 1 教育条件整備
- 2 組織的な学力向上の推進と授業改善
- 3 ここのえ学園基本計画に基づいた小中連携・地域保護者との連携の推進
- 4 ICT機器の更なる活用とサポート体制の強化